間分解能の関係を求めた．この計算はコリメータ面から 5 cm および 10 cm の距離について行い，4種類のコリメータについて検討し，実際のイメージングにおける各コリメータの適正使用領域を「(放射能平面密度)×(撮影時間)」を指標にして求めた．

3. RI 用ラピッド・カメラについて

菅　和夫　松岡順之介
(小倉記念病院・放)

間接撮影用 10×10 mm の大型フィルムを使用したラピッド・カメラは，従来の 35 mm タイムラプスカメラに比して，いくつかの利点をもっている．

1) 最高秒6枚の撮影が可能であり，6秒に1枚までの11通りの撮影ができる．またシンチカメラからのタイマー制御もできる．

2) フィルム感度が大であるため，ドット（インテンシティー）を小さくすることができ，解像力がよい．

3) 大型フィルムであるため，フィルムのままで読影ができる．

また，ライフサイズに比較しても，フィルム感度が大きいため，相対的解像力に優れ，画質がよい．

4. T_4 PEG Riapac による Thyroxin の測定

吉井　弘文　広田　嘉久
石原　悦子　矢野　恵輔
前田修一郎　片山　健志
(熊大・放)

Thyroxin の測定に T_4 RIA PAC を用いているが，今回，B・F 分離に PEG を用いた kit を使用する機会があったので報告する．

Incubate 温度は，室温 (25°C) と 37°C を比較したが，37°C において，いく分 Count が多かったが，得られた値は同じであった．

同一ロットによる均一性は3種類の検体についてみたが，CV 4.7% 以下であった．回収率も，88.9～100% と良好であった．

T_4 RIA, PAC との相関は r=0.89 と良好であったが，Thyroxin が高濃度になるにつれて，低値を示す傾向が認められた．

なお，正常例の件数が少なく正常値を算出することはできなかった．

本 kit による Assay の利点は，室温で Incubate でき，B・F 分離にほとんど時間を要せず，検査用 Tube が1本ですむことが利点と思われる．さらに症例を追加し，検討してみたい．

5. 血中サイロキシン測定用 kit SPAC-T_4 の検討

岩崎　宏司　計屋　慧実
(長崎大・放)

現在，血中サイロキシンの測定用 RIA kit として数種類のキットが市販されているが，今回，われわれはあらかじめ試験管の管壁に T_4 抗体を付着させているために，Bound と Free の分離の際に，遠沈操作を必要としない Mallin-crodt 社の SPAC-T_4 RIA kit を使用する機会を得たので，このキットの基礎的検討を行い報告した．

結果：1) Incubation は 37°C で60分であった．2) Intra assay および Inter assay は，それぞれ 6.1±0.39 μg/dl c.v. 6.4%，6.3±0.23 μg/dl c.v. 3.6% と良好であった．3) 疾患別では，甲状腺機能亢進は 17.1±4.23 μg/dl. 甲状腺機能低下 2.8±1.36 μg/dl，正常者は 8.4±1.66 μg/dl であった．4) 本法と他のキットと比較すると，相関係数 0.97 Y=1.04X+0.29 と非常に良い結果が得られ，本キットが十分ルーチン検査として使用できる．

6. CEA の経験 (第2報)

松岡順之介　森田　孝二
寺田　美緒　竹本　律子
(小倉記念病院・放)

一昨年行った二抗体法を基本にサンドイッチ法，ならびに Z-Gel 法との比較を行った．Z-Gel 法の

Presented by Medical*Online